## 平成 23 年度事後評価・決算

# 事務事業マネジメントシート

	小学校耐震化事業		教育委員会	所属課	教育総務課
	$\langle IV \rangle$ ふるさを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	所属G	教育総務・給食G	課長名	小山 伸
施策名	計 画 〈23〉学校教育の充実	担当者名	梶井貴明	電話番号(内線)	0854-40-1071 3649
基本事業名	体 系 〈069〉教育施設・設備の充実	予算 科目	会計     款     項     I       0 1 5 0 1 0 1	<b>申事業 5 0 3</b>	小学校耐震化事業

## 1 現状把握の部

#### (1)事業概要

①事業期間	②事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
( 年度~)	H23以降の補強設計・補強工事の状況 Is値=0.7未満の学校	昭和56年6月の建築基準法が改正以前の建物を、耐震診断を実施し、必要に応じて補強を行うよう規定した「建築物の耐震改修の耐震促進に関する法律」が平成7年10月施行された。学校施設は昭和40年代から昭和50年代に児童生徒急増期に建設されたものが多く、老朽化が進む中で、その耐震性の確保が課題となっている

#### (2)トータルコスト

# ①事業費の内訳(概要) 【現年】

木次·鍋山小補強設計費9,980千円、耐震判定手数料683千円 【繰越】

西小(屋体)·海潮小(校舎)工事費59,262千円 同上工事監理費2,835千円、西小補強設計費3,864千円

# ②延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)

学校·地域連絡調整、定例工程管理会議出席、現場確認。 補助金申請·実績報告業務

			甲亚	(決算)	(決算)	(決算)	(計画)	(計画)	計画
	財	国庫支出金	千円	70,957	214,188	27,934	55,026	90,315	458,420
事		県支出金	千円						0
業	内	地方債	千円		3,500	38,200	90,800	97,400	229,900
費		その他	千円						0
貝		一般財源	千円		1,576	10,490	5,572	5,215	22,853
	呷	■業費計(A)	千円	70,957	219,264	76,624	151,398	192,930	711,173
人	正	規職員従事人数	人	3	2	2	1	1	
件		延べ業務時間	時間	100	100	100	100	100	
費		人件費計(B)	千円	381	389	394	0	0	1,164
<b> </b>	ータ	ルコスト(A)+(B)	千円	71,338	219,653	77,018	151,398	192,930	712,337

| 出台 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 全体

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標
① 主な活動

	23年度実績(23年度に行った主な活動)
£	【耐震補強工事】西小学校(屋体)·海潮小学校(校舎)【耐震補強設計】木次小学校(校舎)・鍋山小学校(校舎)
¥	学校(校舎)【耐震補強設計】木次小学校

#### 24年度計画(24年度に計画している主な活動)

【耐震補強工事】木次小(校舎)・鍋山小(校舎) 【耐震補強設計】大東小(校舎)・久野小(校舎)・ 阿用小(校舎)・斐伊小(屋体)・久野小(屋体)【耐震診断】久野小(屋体)

	指標名		21年度	22年度				最終
,	⑤ 活動指標	単位	(実績)	(実績)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
	ア耐震性を持たない棟数	棟	17	13	9	5	0	0
	1							
	ゥ							
	エ							
	オ							

	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	F	6	指標名 対象指標	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	市内小学校		ア	学校数	校	21	21	20	19	19	19
			イ								
外	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)		$\bigcirc$	成果指標							
н.	1	'	ア	耐震性がある建物	校	33	37	42	44	50	50
	施設の地震時における安全確保		イ								
			ゥ								
F	④ 結果(どんな上位目的に結び付けるのか)		8	上位成果指標							
位目	生きる力を身につける。 →生きる力とは?・基礎基本(知・徳・体の	] '	ア	「将来かなえてみたい夢がある」と答えた児童生徒の割合	%		58.6	58	61	_	64
的	面)を身につけて、課題を見つけ、判断する 能力		イ	不登校児童生徒の割合	%		0.55	0.55	0.53		0.5

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

(4)事務事業の環境変化、住民息兄寺 ① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は どう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比 べてどう変わったのか?	②この事務事業に関する これまでの改革改善の取り組み経緯	③この事務事業に対して関係者 (市民、議会、事業対象者、利害関係者等)から どんな意見や要望が寄せられているか?
学校施設は昭和40年代から昭和50年代に児童生徒急増期に建設されたものが多く、老朽化が進む中で、その耐震性の確保が課題となっている。	昭和56年度以前に建築された校舎等 について、耐震診断を行った。	耐震化の推進

	事務事業名	小学校耐震化	事業			所属部	教育委	美員会	所属課	教育総務課
2	評価の部(SEE)* ①政策体系との整							↑後の方向性・	改革改善	に反映
				ランス でいる ドフいている		明之		/ IX 07/11/11/11	<b>%</b> +%6	
	この事務事業の目的 策体系に結びつくか が結果に結びついて	・?意図すること	安全	安心な教育環境	竟づくりに	に結びつく	<b>&gt;</b>			
	② 公共関与の妥		□ 見直			申】 <b>シ</b> 申】 <b>シ</b>	⇒3 4	後の方向性・	改革改善	に反映
当性	なぜこの事業を市(りればならないのか? て、達成する目的か	税金を投入し		ョである 教育課程は行政		🔻				
	③対象・意図の要		□ 見直	<b>直し余地がある</b>	<b>⇒【</b> 理	曲】つ	⇒3 4	後の方向性・	改革改善	に反映
	対象を限定・追加す限定・拡充すべきか		☑ 適切			曲】与	\ <del>\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\</del>	L -7		
	限定・拡充すべきか	· ?	小字位	校の施設(校舎						
	④ 成果の向上余			ニ余地がある ニ余地がない		申] <b>シ</b>	⇒3 4	後の方向性・	改革改善	に反映
	成果を向上させる余成果の現状水準とも 差異はないか?何か 上が期待できないの	あるべき水準との が原因で成果向				•	し等によ	り、計画より早期	に完了こと	ができる。
有	⑤ 廃止・休止の原			響無 ⇒【理由			⇒3 4	後の方向性・	改革改善	に反映
	事務事業を廃止・休郷のを無いるの内容	止した場合の影		響有 ⇒【その の地震に対する		•	なくなる。			
評価	音の有無とその内容 ⑥ 類似事業との網	<b>まけ</b> る		ニ手段がある						
	日前記法   目的を達成するには			統廃合・連携が					方向性・	改革改善に反映
	以外他に方法はないとの統廃合ができる	か?類似事業と		統廃合・連携カ 事業はない。	「できなし	ハ ⇒【珥	曲】ラ	•		
	の連携を図ることに 上が期待できるか?		_	事来はない。 こ手段がない	⇒ľ⊞	<b>企</b> 【由				
	⑦事業費の削減	余地	□ 削洞	<u>- 1 (水 60)</u> 域余地がある 域余地がない	<b>⇒【</b> 理		⇒3	3 今後の方向	生・改革改	z善に反映
4	成果を下げずに事業ないか?(仕様やエ 民の協力など)	≹費を削減でき 法の適正化、住		削減に努めて		- •	削減余地	がない。		
性評	⑧ 人件費(延べ第 減全地	美務時間)の削		域余地がある 域余地がない		申】づ	⇒3	3 今後の方向	生・改革改	z善に反映
価	やり方の工夫で延へ   減可能か?成果を		化に関する一道 化に関する一道		•	はけで	きない			
	以外や委託でできな  ③ 受益機会・費用	いか?					.,,	ミグネマ :0 3 今後の方向性	# 7F # 7F	· 羊 / - 匸 nh
平	化余地			≦し余地がある ヹ・公正である			→ :	うう後の方向に	王•欧里岛	(善に及吹
評	事業内容が一部の いて不公平ではない 担が公平・公正か?	\か?受益者負	学校	教育法第5条の	規定に	より、受益	者が負担	旦するものではな	ない。	
3	評価結果の総括の	と今後の方向性	(次年度	ま計画と予算.	への反			·/====================================	da EN	
(1,	)1次評価者として	の評価結果	_	_		(2) 至	14総招	(振り返り、反	<b>省</b> 息)	
	① 目的妥当性 ② 有効性	<b>☑</b> 適切 <b>☑</b> 適切		□ 見直し余地 □ 見直し余地						
	③ 効率性	☑適切		□見直し余地		₩				
	④ 公平性	🔽 適切		] 見直し余地	あり					
_	) 今後の事業の方				\ <del></del>	<u> </u>			(4	4) 改革・改善による期待成果
	廃止	□目的再設 有効性改善)		□ 事業統廃合 □ 事業のやりた		効率性改	善)			*・.
	事業のやり方改善(	公平性改善)	E	☑ 現状維持(従	É来通り	で特に改立	革改善を	しない)		向  上
										成 維 果 持
	実施設計に基づき	、引き続き事業	を継続し	ノ、早期完成 <i>を</i>	を目指す	す。				低 × ×
										下
(5	) 改革,改善を実現	する上で解決	すべき誤	<b>課題(壁)とその</b>	の解決	策				
	特になし									